

特別委員会報告

総合計画特別委員会

10月29日に開催された委員会では、小中学校の再編と新体育館の建設に関する再検討案と第5次勝山市総合計画の基本構想、基本計画の骨子について、市の考え方を確認し、委員会からもいくつか提言しました。

その後、中学校区別座談会などで改めて市民の皆様からいただいた意見等を反映させた、第5次勝山市総合計画の基本構想、基本計画の骨子について、12月1日に市から説明を聴取し議論しました。委員会での主な意見は以下のとおりです。

基本構想案について

近隣市町等との連携について

趣旨の中に、観光だけでなく広域の取り組みや、そのための協力体制などについて、位置付ける必要があるのではないか。

まちづくりの指標について

それぞれの施策について数値目標を設定する場合、しっかりした努力目標を設定し、市民にわかりやすいものを示しながら、総合的な評価の方法や具体的な達成率の算出など評価の方法についても明確にすること。

エコ環境都市の実現について

市民の努力によりクリーンなまちと言われるようになったので、これを受け継いで守っていくという視点が必要である。また、恵まれた自然環境、生物多様性についてしっかりと位置づけ、今ある豊かな自然環境を今後、どのように保全、活用していくか明確にしていく必要がある。

北谷地区の活性化、再生に向けた重点政策について

北谷地区の集落の再生や産業の振興については、現状を見ると困難な状況にあると思うが、集落活性化の新しい形態を北谷地区の皆様と模索し、住民福祉の向上のため

に、ぜひ目標の達成に向けて努力してほしい。



基本計画案の"まちづくりの政策体系"について

市民参加と協働について

市内の各団体の活動が衰退傾向にある中、なぜ、市民の参加が得られないのか皆で考えながら、市民の皆様が参加してよかったという組織、活動にしないといけない。そのために行政が各団体を育てるという意識が必要である。

効率的な行財政運営について

行財政運営については効率だけにとらわれるよりも、やるべきことはお金をかけてもやるという姿勢が必要であり、また、行政組織の効率的運用に加えて横の連携をしっかりとって、市民の皆様に行行政サービスを十二分に活用していただくという視点も必要ではないか。

にぎわいと産業の振興・連携による持続可能なまちづくりについて

厳しい情勢の農業が生き残るためには、勝山らしいやり方、勝山でしかできない特産物を作るなどの方策が必要。また、農、商、工、観光、市民活動も含めて連携した施策を位置付けるべき。

ほかにも様々な意見、提案がありましたが、市はこれからまとめる第5次総合計画の基本構想および基本計画の策定に際して、今回の意見、提案を十分反映していきたいとのことでした。今後とも市と議論を深めながら、よりよい総合計画が策定できるよう、提言してまいります。